

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500015		
法人名	社会福祉法人 池田さつき会		
事業所名	グループホームポプラ神田 2階彩ユニット		
所在地	大阪府池田市神田		
自己評価作成日	平成22年3月30日	評価結果市町村受理日	平成22年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2792500015&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4F
訪問調査日	平成22年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念としては、個人の尊厳、生き方を考え、楽しくその人らしい生活の継続を目指している。法人全体のキャッチフレーズは「明るく楽しく前向きに」である。当事業所は池田市の中でも高齢化率の高い地域にあるのでポプラがここであってよかったと思ってもらえるように特に独居高齢者への支援を念頭に、防災、イベント、環境美化を考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の1階はデイサービスセンターを運営され、2階、3階にそれぞれ1ユニットのグループホームがある。室内はゆったりとした雰囲気です。食卓も自由に配置換えできる広さである。採光もよく壁面には利用者の方が書かれた絵手紙や行事写真などで飾られている。利用者は介護認定4までの比較のお元気な方が多く、1階のデイサービスに遊びに行ったり、2、3階のユニットの方達の交流もされている。毎月の行事予定も作成され御家族へ送付されていて行事などの参加を呼びかけられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を踏まえて、毎月のユニット会議で希望実現に向けた話し合いを実施。利用者、家族の意見に留意し個別にプランを作成し、職員全員が共有実行している。	法人の理念はQUALITY OF LIFEを丁寧に掲げて目指されている。そしてキャッチフレーズは“明るく楽しく前向きに”と職員の方達も共有しケアにつとめているが地域コミュニティーが充分伝わらない。	地域密着型のサービスが平成18年から推進され、利用者が自分の住んでいる馴染みの地域で自分らしい暮らしを続けるための支援をされている事を、理念の中に言葉で伝わるよう希望したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議や地域交流会を通じ、民生委員の方や社協の方から継続的に情報収集しまたアドバイスを頂いている。昨年度より引き続き神田地区社協への入会を継続してゆく。	地域交流会を通じてワイワイ祭り、花いっぱい運動などに参加され、社会福祉協議会にも入られ交流を深めておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会を通じ、体操やレクリエーション、楽器演奏や合唱、食事会を実施している。夏祭りを地域に開かれたものとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の関わり方などについて、地元住民の方や行政の方、家族の方から助言を頂き活用させていただいている。	民生委員、地区会長、社会福祉協議会と地域包括支援センターの担当者、家族代表、職員が参加して2ヶ月に1回開催し、双方向の意見交換をし運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の会議や池田市グループホーム連絡会に参加し、高齢介護課との懇談会等に参加し、情報収集や行政のサービスについて理解を深め、サービスの向上に努めている。	池田市主催の会議、連絡会に参加し担当部署と懇談しサービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待防止関連法について周知を徹底し、認知症実践者研修及び関連法についての研修参加を図っている。玄関、階段室について開錠の方法を検討していく。	身体拘束をしないケアについては研修し職員に徹底すると共にエレベーター、玄関等の開錠にもいろいろの方法で対処していく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関連する法人内研修会に参加し職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修により基礎知識を習得している。法人内には、成年後見人の経験者も居り、その必要性に応じ相談できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、運営規程・重要事項説明書にて十分な説明を実施し、内容を確認いただいた後に署名捺印を取得し、契約書にて内容の確認を行い十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会・家族会・ご家族の訪問時に家族の希望もお聞きして、より良い関係が築けるよう配慮している。共に施設行事に参加していただけるよう呼びかけを継続している。	1年1回であるが家族会を開催する。又家族の訪問時によく会話しなんでも言ってもらえる雰囲気を作り意見を頂き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議で意見、提案を聴く。業務の改善等は毎朝の申し送りの時間も含め、適宜話し合いにて決定する。	ユニット会議でスタッフの率直な意見を聞き運営に反映し、申し送りを徹底するよう勤めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	情意考課制度の導入が実施された。考課項目に従い、指摘することにより、話し合いの場を持ち、職員の良いところを伸ばし、悪いところを改善し、評価につなげていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人本部の年間プログラムに沿ってそれぞれの研修を定期的実施している。外部研修は熟練度、専門性を考えて管理者が推薦したり本人の自発性を生かす。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度池田市グループホーム連絡会を利用し定期的に見学や意見交換、交流を実施しサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に家庭環境や趣味、生活歴、本人、家族の思いをアセスメントし不安を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、事前面接で不安、求めている事等について伺い、家族の介護負担の軽減を図っている。その際、なんでも相談が出来るような関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に支援方法について他のサービス利用についても提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションを第一に考え、共に生活を営める関係作りに努めている。過介護にならない様に気をつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の希望や状況を代弁し、家族の方とも連絡を取り合い助言、実行している。毎月のユニット便りにて近況を把握できるよう努めている。また施設内の行事への参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や今まで暮らしてこられた地域の方と面接していただき関係が途切れないようにしている。	家族の方や地域交流の時に親しくなった人々ともお付き合いが続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のレクリエーションやお手伝いを通して協力しあう気持ちを持っていただくよう配慮している。個々のペースや行動に合わせた関わり方を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時にいつでも相談が出来るよう配慮している。また新しい環境での生活をされている方には家族の方と相談し訪問を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人を優先し、同じ方向性で職員が動けるよう月1回のカンファレンス等で、希望や意向を取り入れる方法を検討している。家族相談を適宜行い、また方向性が決まった際には報告する。	職員会議で利用者の思いや意向を把握できるように話し合い家族の方とも相談して意向や希望に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接や入居の際に本人、家族の方から伺っている。入所後、引き続き傾聴により多くの情報を収集し、支援に努める。今後、センター方式の様式を利用し情報の収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を決め、担当の方に関しては特にきめ細かく体調に配慮したり、意思を尊重し暮らしていただいている。全体的な気付きは、毎朝の両ユニットの申し送り確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に本人、家族の意向を尊重し、主治医と連携し介護計画を作成している。必要に応じセンター方式を活用している。各個人を尊重したケアの実施に努めている。	利用者にはそれぞれ担当者を決めている。利用者本人と家族の希望や意向を聞き主治医とも話し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記載している。他介護職が閲覧して詳細が理解できるような内容記載を心掛けている。毎月モニタリングを実施し、必要に応じてプランの見直しに活用する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ建物にデイサービスセンター、ケアプランセンターがあるので、各々の機能を有機的につないでサービス提供できる。情報がトータルに得易い為、入居の段取り、緊急性への対応ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回、地域交流会を実施しており、ボランティアも参加して食事会やレクリエーション等を実施。また防災訓練を実施している。運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診とは別に、入居以前からのかかりつけ医への受診の方もいる。夜間や急変時の対応の体制も出来ている。必要に応じ家族に連絡した上で主治医の指示を仰いでいる。	入所前のかかりつけ医を受診している方もあり主治医と連携し指導を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内デイサービス担当の看護職員と連携を取っている。週に1度利用者の健康管理についての相談を行い、また体調の変化等はその都度連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との連携を図り家族との連絡を密に取っている。必要に応じ面会しインフォームド・コンセントに同席している。退院後の生活について家族、医師や看護師から情報を頂き助言して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して、グループホームの生活が困難になってきた場合家族、主治医との相談で方針を決めている。看護体制が不備であることから同法人内の特養ホームを紹介している。	入所時の話し合いで利用者の状態と希望を充分理解し、重度化されたときは主治医とも相談し方針を決め、御希望であれば系列の特別養護老人ホームを紹介する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等の参加。ヒヤリハット、インシデント報告書の作成。事故後のカンファレンスの実施で再発防止に取り組んでいる。緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる場所にある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の提示や、避難訓練を実施している。地域の協力体制については、地域交流会や運営推進会議を通して協力体制を構築しようと、呼びかけを行っている。	年2回は消防署の指導で避難訓練を実施している。地域交流会の近隣の方の協力体制を呼びかけ協力をいただけるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳、プライバシーを守り不快な思いを抱かせないように言葉掛けに十分気をつけている。個々に合わせ工夫し、言葉遣いにも、馴れ合い口調にならないように周知徹底を図っている。	利用者のプライドを傷つけないよう言葉遣いや、不用意な馴れ合い言葉に注意し、個人の特性に合わせて使用する言葉に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の提供や、入浴時間、レクリエーションや家事参加について自己決定の許実施している。本人の希望や要望を理解力に合わせた声掛け支援で実現出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の買物希望、外出希望にも極力対応できるよう努めている。レクリエーション、家事への参加へも声掛けし、自己決定を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等、普段よりおしゃれをして出掛けたりしている。理美容は希望者は施設内で施行。女性の利用者には、メイクのボランティアに来てもらい、普段のおしゃれにつながるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は厨房での一括調理だが、出来ることは利用者にして頂いてる。月1回は外食等で食事をされ、希望に沿った物を提供している。調理のレク等を行っている。エプロン、三角巾の用意もある。	職員も一緒に食事をしさりげなく気を配っている。利用者にもできる事は手伝っていただいている。月1回は外食を楽しみ、出前のおすしをみんなで頂き変化を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事、水分量のチェックを行い、健康状態に留意している。食事、水分、体重については、主治医に報告指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、見守り、必要に応じて介助を行っている。口腔の状態により、歯科受診、往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を元に、各々のパターンに基づき声掛けにてトイレ誘導を行う。それでも難しい場合にはパット等使用される。状況に変化が生じた場合は、その都度よりよい支援について検討している。	一人ひとりの排泄表を作成し個人のパターンを把握して誘導する。失禁の時でもさりげなく他の方に判らないよう処置をする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の状態に留意し便秘の予防に努めている。看護師、主治医からの医学的フォローはもちろんのこと介護職が出来る事として日々の運動、水分摂取等の促進を図る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は主に日中である。ゆっくりと時間を使うよう心掛けている。入浴剤を使用し快適に過ごして頂く。入浴に拒否があった場合、タイミングをずらし声掛けを行了承の下入浴していただいている。	1日おきに入浴されるようにしているが毎日の方もある。時により足湯も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	換気、室温調整、加湿、明暗等利用者に合わせて調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に薬情のファイルを作り個々の疾病に対する薬の目的や副作用、用法、用量を理解する。配薬、服薬の誤りによる事故のリスク軽減を図る為、複数人でのチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、現在出来ることを把握し、お好きなことを継続して頂ける様にする。継続的な取り組みが難しい方には、短時間での取り組みを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時に散歩を出来るだけ実施している。職員の配置によっては散歩が困難な場合もあるので、中庭にて日光浴をして過ごして頂く。	気候の良い時は1日に1回は外に出て中庭で日光浴をしたり希望者と散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい方には少ない金額ではあるが自己管理していただいている。家族の了承の下外出時等に使用していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用されたり、希望者には施設の電話を利用したり、家族から掛けて頂くようお願いする事もある。絵手紙のボランティアにて月1回季節に合わせた絵手紙を家族宛に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がトイレ等がわかり易いように表示している。歩行時の休憩や会話の為に、ソファの配置などに留意している。月1回フラワーアレンジメントを行いその花を居室やリビングに飾っている。	余裕のある共用空間でソファも配置され自由に休めるよう配慮されている。採光もよくフラワーアレンジメントが飾られ楽しさが伝わってくるようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごしていただいている。人が多く集まるリビング以外にも廊下や多目的室に過ごせるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人愛用の身の回りの物、なじみの家具等を使用し、家庭的な雰囲気を作っている。プライバシーを保ち、気兼ねなく生活できるよう努めている。	居室はその人らしい部屋に飾られている。その方のお好みを感じられ飾り物を見て過去にすばらしい刺繍とかパッチワークを楽しんでいた事がよくわかる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間に自立的な行動を行う上での手摺りがあり、安全で残存能力を有効に活かせる環境づくりを心掛けている。個々に応じて分かり易いように表札やトイレの掲示等を行っている		